

行政改革推進審議会（平成 30 年度第 1 回）会議録

| | |
|------|---|
| 開催日時 | 平成 30 年 10 月 12 日（金）午前 10 時から 11 時 30 分まで |
| 開催場所 | 山陽小野田市役所 3 階 第 2 委員会室 |
| 出席委員 | 山陽小野田市行政改革推進審議会委員 10 名 （大田委員、岡本委員、江田委員、塩田委員、竹本委員、永山委員、半矢委員、大本委員、上野委員、武藤委員） |
| 出席職員 | 企画部長、企画部次長、企画政策課長、企画政策課課長補佐、行革推進係長 |
| 協議概要 | <p>開会</p> <p><u>第一次行政改革プランの策定について 事務局資料説明</u></p> <p>【質疑】 （委員）</p> <p>この行政改革プランは実際に何のためにやるのか、見えていない。人口減少への対応が全然入っていない。人口は減っており少子高齢化が進んでいる。行政の中に人口増に対応する部署を設置すべき。そして全国に発信して PR する。特に山陽小野田市は住みやすいまちだと全国に知ってもらうようにするべき。</p> <p>また農業地域について今、全国的に田園回帰、田舎に住みたいという要望が全国的にあるらしく、特に定年退職者が多い。田園回帰を促進する取組や部署がないと全国に発信することができない。次に外国人の雇用も考えてほしい。それにより人口の増加や財政の安定も進む。やはり人が少ないことに大きな原因がある。</p> <p>それから商店街について、なぜこのようなことになったのか、厚狭の商店街の 8 割は辞めている。昔は庁舎があり人もいたので商店街にも人通りがあったが、近頃の社会情勢も関係し、人口も少なく商売が続けられない。もう少しその辺りを考えて支所に人を増やしてもらいたい。庁舎が山陽地区から動いたために、農協の統合など農家のための施設なのに、そのようになっていない。市の行政にこういった意見を反映してほしい。</p> <p>（委員）</p> <p>厚狭商店街の話になるが、お陰様で 2 年間に 4 店舗新規でオープンすることができた。人口や世帯数も厚狭地区は増えている。厚狭地区の成功例を見て何が良かったのか、山陽小野田市全体で把握したい。参考をお願いしたい。</p> |

(事務局)

山陽小野田市でも人口増にならないとしても人口が減らないように、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し対応している。

(委員)

現実に部署を作らないとできない。

(事務局)

4月からシティセールス課という部署を作り、今から山陽小野田市の売り込みを強化しようとしている。

(委員)

公務員はどうしても視野が狭いと思う。問題はいかに住民サービスをするかで、人口が減ったことに大きな問題がある。総合事務所にもっと人を増やした方がいい。

(委員)

私もボランティアなど今まで行ってきたが、その中で良い面、悪い面もある。指定管理者制度は評判がいい。しかし、それらについてプロジェクトチームや幹事会だけで評価することになっているがそれでいいのかどうか。

人口面でも理科大薬学部ができ、計画期間は4年となっているがその先、長期的にみていく必要がある。

あと、まちづくりの言葉が抜けている、市が音頭をとりイベント等まとめてやってほしい。シティセールス課にも要望には行こうと思うが、その辺りを行うと活気が出てくるのではないかな。ただ単発ではなく、10年間は続けてほしい。

(事務局)

人口増については基本的に今年度から始まる第二次総合計画がそういった内容になっている。これは12年間の計画になっており、長期の視点で取り組む必要があると考える。

指定管理の御指摘については指定管理をして良かったところ、悪かったところ、様々ある。新しい行革プランを作るに当たり、今までの行政改革大綱の検証作業を行い、指定管理の内容についてもより良くなるように策定する。

(委員)

審議会を1年ぶりに今回行っているが、もう少し頻繁に行えるように事務局で日程を組んでいる。

第一次行政改革プラン策定に向けた基本方針について 事務局資料説明

(委員)

基本方針の中の職員の意識向上について、人事課に確認すると、人事評価を活用していない。管理職員、一般職員ともにしていないので今後のプランに人事評価を取り上げてほしい。検討をお願いしたい。

(事務局)

今は人事評価シートで、個人目標と能力評価の2つのシートを1年ごとに作成している。年度の初めに組織目標を定め、それに基づき各個人の1年間の仕事目標を定め、年度末にそれに対する自分の評価、上司の評価を行い、達成度を自分や組織で確認する制度になっている。人事評価を給料に反映することについては人事課としても難しいとの立場をとっていると思う。

(委員)

人事評価シートがあるのは知っている。現実どれだけ立場や給料に反映されているか、この4月に公表された山陽小野田市の給料に関する資料では人事評価を活用していないにチェックがついている。シートがあるけど現実には評価されていないと我々は捉えている。今あるシートがどこまで反映されているのか疑問。是非職員の能力や意識を向上させるためにも人事評価を採用していただきたい。民間では当たり前のこと。職員がいかに活躍しやすくするか考えてほしい。

(委員)

塩田委員さんの続きのようになるが、人が人を裁くというようなところで人事評価をしにくいのもかもしれない、適材適所もあるので、お互いに励みになれるように能力が発揮できるようになればと思う。

(委員)

人事評価は表に出しにくく、企業もパワハラ問題になりやすい。評価はするが実際に活用していないと言いつつも能力のある人が欲しいという本音がある。

(委員)

資料1の裏に、策定に当たって、国の施策や社会情勢の変化、新たな取組について調査するとあるが、これは庁内で行うのか、外部に委託して資料を集めるのか、教えてもらいたい。

(事務局)

庁内で全部行う。

第一次行政改革大綱の検証について 事務局資料説明

(委員)

達成状況について、継続 A のものは達成できていない、引き続き載せていくという認識でいいか。というのも事務コスト削減など内容からしてレベルが高くないようだが、行政改革プランに必要なのかどうか、継続 A の検証はされているのか。

(事務局)

事務コストの削減の内容のレベルが高くないということについては、部長級の会議でも同様の意見が出ている。継続 A にするかどうかは一つずつ検証した。もともとの評価が良い場合でも継続 A とし行動計画を策定する場合もあるし、評価があまり良くなかったので継続 A とし行動計画を策定する場合もある。

(委員)

課題とそれらを解決するために、限られた人員と時間を生かしてやっていき、優先順位や継続や中止がある。その都度、時代の流れによって優先順位も変わるものと考ええる。

(委員)

対話の日について、対話の日は市長が市を知るために地域を回るもので、私も出席したが非常に時間が短い。質疑応答が 30 分なので 2,3 人で終わってしまう、私が質問していたら周りから他の質問をする時間がなくなるから、そのあたりで止めるように言われる。対応の時間が少ない。市民フォーラムになっていない。フォーラムとは質疑応答のことである。たった 30 分で市の方針説明や質疑応答を全て行うのは無理じゃないか。双方が納得いくように説明する時間が必要。そうでなければ何のための対話の日なのか分からない。

(事務局)

対話の日は新しく形を変えて、まちづくり懇談会というものになる。

(委員)

その時は時間をしっかりとってもらいたい。地元の声が市長に直接届くように。

次に人事の話だが課長級は 1 年ごとに交代している。せめて 3 年ごとにしてもらいたい、定年制についても 65 歳、70 歳でも働いてもらい、少しでも退職金を増やすようにし、長く働いてもらいたい。新しい課長では何も分からない。課長は全体の流れや業務について一番よく把握しておくべきなのに、1 年で交代していたら、せっかく把握しても意味がない。その辺をよく考えてもらいたい。

(委員)

大綱の項目が 57 あり、説明では完了したのが 4.7%。この達成率をどう評価しているのか。もうひとつは C・D の達成評価が企画政策課に多いが、人材不足が原因かなとの印象を受ける。今後これらの問題にどう対応していくのか。

(事務局)

正直 A の数は少ないと感じている。特に D が企画政策課に多いとの御指摘があるが、これはアウトソーシングの問題と公共施設のあり方の取組が大きい。これらは新しい行革プランの重点事項として検討を行っていき、今後も一番大きな課題と考える。それも踏まえて、後ほど資料 4 で説明する。

(委員)

なかなか結論が出しにくい課題が企画政策課に集まりがちなのかなと感じている。今後の展開に期待したい。

(委員)

出前講座について、これはどのくらいあったのか。

(事務局)

出前講座は今までどおり開催している、29 年度に 37 回、参加人数は 984 人。

(委員)

財政計画、バランスシートについて、財政計画と名のつくものはあるが、財政の見通しだけにとどまっている。見通しを踏まえた上で第二次総合計画を達成するためにはどういった計画をしていくのか。

また評価と結果を見ると、達成状況が継続 B となっており継続 A よりランクが低い段階にある。継続はするけれど行政改革には計上しないことになっている。特に気になるのは、この 3 月に発表されている財政計画では経常収支比率が 92%、第二次総合計画では 33 年度の目標で 85% と非常に良い数字が上がっている。財政計画上見ると 90% を超えている、これでは第二次総合計画が達成できないのではないかと懸念がある。継続 B としていいものなのか。根本的にどうしたら経常収支比率を下げることができるのか、いかにして収入を増やして目標を達成するのか真剣に考えていかないといけない。これが達成されないと他の項目も財政難になるのではないかと。ぜひ検討をお願いしたい。

(事務局)

この件について何度か御指摘いただいているが、財政計画は見通しであり、現状でいくとこのようになると説明している。第二次総

合計画で掲げている 85%はそこに対する目標になる。財政計画がこのままであれば達成できないので、第二次総合計画や行政改革プランに従い達成していきたい。計画そのものはバランスシートの公表など改革を行い今後も続けていく予定。財政の健全化はいろいろな取組の中で進めていこうと思う。それを一体化した計画にできるかどうかは検討していきたい。

第一次行政改革プランの素案について 事務局資料説明

(委員)

これは具体的にすると、人手がかなり必要になるのではないかと。職員を増やすのは良いことだと思う。給料も確保できれば、裕福になるし、市の活性化にもなるが、無計画に人を増やし賃金を上げるのは良くない。今は人口も減ってきており市に入る金も少なくなってきた。先ほども言ったが人口を増やす部署が必要で、その部署が動くことで人口が増え、財政も余裕が出てくると思う。

新しい提案になるが法的賭博、カジノが国会でも取り上げられており、認められるようになれば、市内には石炭の坑道がたくさんあるので、坑道を利用してカジノを作ったらどうだろうか。もちろん国がカジノを認めた場合の話。これなら市に金が入ってくるしオートレースよりも儲かると思う。こういった方法をとらなければ人口は簡単には増えない。とにかく財政を豊かにする方法を考えたほうがいい。

(事務局)

坑道に関しては大浜炭鉱の水没事故の悲しい歴史があるのでどうかと思うが、人口減少については極力減らないように取り組んでいく。

(委員)

黙っていても人口は増えない、定年退職者への田園回帰など、良いところを生かすようにしたら上手くいくのではないかと。

(委員)

人口減については日本全国をあげて取り組まなければいけない課題になっている。ある意味ではギャンブルもひとつの手段だが、やはり教育関係をしっかりやっていく。厚狭の人口が増えているのは、そういった環境が整っているからだと思う。いろんな意見を出し合いながら、人口も山口県は増えていると言われるように大綱を進めていきたい。

(委員)

台風と地震などの対応が聞きたい。

(事務局)

災害対策は大変重要であり、総合計画に基づき行っていく。この行政改革では災害対策に触れる要素は少ないので別の計画に委ねたい。

(委員)

特にポンプ場とため池、これは 30 年以上経っている。旧小野田市はため池を扱うのに市有になっているが、旧山陽町では、まだ個人のものになっており、工事をすると地元負担になる。昔、農林水産課の職員が旧小野田市にあるため池を全部、市有にしたことがある。旧山陽町分も市有にするべき。

(委員)

市長が掲げる協創によるまちづくりに大変共感をしている。行政の攻めの取り組みでシティセールス課をつくられたと思う。しかし各団体のやりたいことの情報収集や産学官民が一体となったまちをつくっていくためには、行政だけに任せてもうまくいかないので連絡機関を設置してほしい。そしてキーマンが会議など取りまとめていけば、もっと協創によるまちづくりが推進するものと考えている。

(事務局)

次回、行動計画について御審議いただくことになると思うが、中でも協創の取り組みについて幹事会やプロジェクト会議でも話し合いがされている。市長の理念をどのように具現化していくか、意識統一を図るため行動計画のようなものがあるのではないかと。ということで、来年取り組む方向で行動計画で触れている。委員さんが言われるように協創は協働から一歩進んだ形になるので、市役所だけではなく多様な団体とビジョンを共有していく必要がある。市が多様な団体に対してこんな形で進めていくと伝えていかなければいけない。具体的な形になっていないが、進めていく方向で動いている。

(委員)

今言われる協働は、共に働くことを超えた意味での協創だと思う。

(委員)

基本理念、基本方針は非常に素晴らしいものだと思う、これを達成するために是非やっていただきたいのが、少子高齢化で高齢者が増えているので高齢者を人材として活用すること。65 歳以上は増えており元気な高齢者は多い。

2番目の基本方針にある行政サービスの質の向上で地域や市民団体に高齢者の活用を盛り込んでいただきたい。学校にも地域のボランティアが必要。他にもいろいろと取り組めると考える。もうひとつは3番目の職員力の強化では、具体的にはどのようにするのか定めてほしい。

(事務局)

後半についてはそのとおりで、従来型の研修に行くレベルではない資質向上の部分が必要。今はまだ行動計画の策定途中なので、どこかで落とし込みたい。

少子高齢化については決して悪いことではなく、高齢者が輝いて生活することは大切なこと。今回の行政改革プランでは、従来型のように削るばかりに重点を置くのではなく、まちづくりを行政と共に、市民と一緒にあって担い手として取り組んでいく観点から協創を入れている。行政改革とは切り口が変わってくるが、上野委員がおっしゃるところにもつながると思う。高齢者の方々の力を貸していただくのも協創のひとつ。行動計画にもしっかりと入れていきたい。

(委員)

職員力の強化について、地域には高齢者が多く、必要だと感じる。協創によるまちづくりを掲げるのなら、職員の方にも年に1回各地域のイベントに参加してほしい。地域も喜ぶし活性化にもなる。現実には職員の方もOBも来ないから物事を頼んだりもしない。現役の方から促してほしい。それがまちづくりになる。

(事務局)

協創によるまちづくりには地域の特性を知る必要がある、率先して地域の中に入り話を聞き、問題や課題の解決につなげていきたい。

(委員)

やはりその地域に住む職員が気軽に地域に出ていくような雰囲気づくりが行政にも必要になってくるのではないか。赤崎ではこの度、退職された職員が、地域にお世話になったからと自主的に色々な場に出てこられていた。そういったムード作りが大事。あとに続く人が出てきてほしい。

(委員)

双方の意見交換が必要になってくるのではないか。市の職員としてではなく一般市民として参加してもらい、いろんな場を通じて仲良くする。協創の原点は仲良くすること、そのスタンスが大事になっていく。

| | |
|--|--|
| | <p>(委員)</p> <p>人口減少について生産性のある人口が増えることが大事。薬学部も設立し人を引きとめることも重要になってくる。あと項目数が57項目あり多いので重要度や優先度があるといい。</p> <p>(事務局)</p> <p>57項目は多いので検証して整理している。今後は少なくなる予定。</p> <p>(委員)</p> <p>知識を生かし活躍されている高齢者は多い。今日出た意見や課題をふまえて次回にまとめてきていただきたい。本日はありがとうございました。</p> <p>閉会</p> |
|--|--|